

□HBMS施設



講義室
プロジェクター、大型スクリーン、全壁面にホワイトボードを設置。



MBA図書室
ビジネス関連書籍が多彩に揃う、静かで落ち着いたアカデミック空間。



HBMS専用学生サロン
仲間とのディスカッションや自習など自由に活用できるスペース。



大学院生研究室
パソコンを使って個人作業に取り組める環境を整えています。

□学内施設



学術情報センター・図書館
蔵書数30万冊を誇る、県内でも屈指の図書館。ラーニングコモンズも完備。

□学外施設



サテライトキャンパスひろしま
市中心部に位置し、公開講座やセミナーを開催。

教育訓練給付金指定講座



HIROSHIMA BUSINESS AND MANAGEMENT SCHOOL

県立広島大学大学院 経営管理研究科

中国エリア唯一のMBAが取得できる
経営専門職大学院

2024

ACCESS



□JR広島駅から

バスで

- 「302号線(都市循環線まちのわーぷ右回り)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩すぐ
- 「312号線(広島みなと新線)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩3分
- 「342号線(県病院前行き)」にて「県病院前」下車…徒歩2分(※始発から8時00分発まで)

市内電車で | 「広島港」行き(5号線)にて「県病院前」下車…徒歩7分

□バスセンター(紙屋町)から

市内電車で | 「広島港」行きまたは「宇品二丁目」行き(1号線または3号線にて)「県病院前」下車…徒歩7分

□八丁堀から

バスで

- 広電バス「12号線(仁保沖町)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩1分

□広島港(宇品)から

市内電車で | 「広島駅」行き(1号線または5号線)または「広電西広島(己斐)」行き(3号線)にて「県病院前」下車…徒歩7分

お問い合わせ先

広島県公立大学法人 県立広島大学 HBMSマネジメント課
☎ 082-251-9726 ✉ mba-office@pu-hiroshima.ac.jp



<http://mba.pu-hiroshima.ac.jp/ja/>

HBMS MBA 検索



広がる。 そして、変わる。

HBMSでは、基礎となるビジネスマネジメント力をしっかり身につけたうえで、現代社会に求められる先端的マネジメント力を培うことによって、MBAホルダーにふさわしい高度な専門性と卓越した実践力を発揮できる次世代リーダーを育てます。少人数のきめ細かな指導、多彩な仲間たちとの濃密な学びあいの2年間は、視野やネットワークそして可能性を飛躍的に広げます。その先には、想像を超えた自らの変化とともに、変化した自分が起こす組織、地域、世界の変化があります。



ミッションステートメント Misson Statement

HBMS (Hiroshima Business and Management School) では、＜起業する＞、＜イノベーションを起こす＞、＜マネジメント力を高める＞、＜事業を承継・発展する＞といったビジネスパーソンのニーズに応えたマネジメント力の育成に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的マネジメント力の開発によって、日本の地域あるいは世界で求められる次世代型リーダーを育成、輩出することを目指します。

HBMSの目指す人材育成像とは

今、日本における労働環境は大きく変化しようとしています。リスクリングやジョブ型雇用という言葉がよく使われるようになりましたが、その本質は、これまでのジェネラリストを重視する雇用の時代が終わり、「プロフェッショナル」の時代になったということです。

プロフェッショナルという表現は「専門職」と混同して使われていることが多いのですが、本来は、専門職は「スペシャリスト」という意味であり、プロフェッショナルとは明確な定義の違いがあります。プロフェッショナルとは、「学問的体系に基づいた高度スキルを活用して依頼人の課題解決をし、その対価として報酬を得る」ものを指します。

今までは、医師や弁護士等のプロフェッショナルが活躍していましたが、分野や職業を超えて、プロフェッショナルに対する社会的ニーズが高まっています。HBMSでは、多様かつ高度スキルを持った人材を大学院レベルで育成することを目指して、単に座学的「学問」では達成できない、いわば、頭だけでなく体も使って覚える「身体知」というべき訓練を行い、プロフェッショナルを養成していきます。

修了認定・学位授与の方針 Diploma Policy

本研究科では、「起業する」、「イノベーションを起こす」、「マネジメント力を高める」、「事業を承継・発展する」といったビジネスリーダーの共通基盤となる能力に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的なマネジメント力を開発することによって、高度な専門能力と卓越した実践力を備えた次世代型リーダーの輩出を目指します。本研究科の教育課程において所定の修了要件を満たすなかで、上記の能力を涵養した学生に経営修士（専門職）の学位を授与します。

学位名称	経営修士(専門職)	Master of Business Administration(MBA)
------	-----------	--

教育課程編成・実施の方針 Curriculum Policy

本研究科は、修了認定・学位授与の方針に掲げる学修成果を達成するため、基礎科目、応用科目、専門科目、実践科目を編成します。各プログラムに必要な科目を段階的・体系的に配置し、講義・演習などの授業形態より、各科目の目標到達を目指します。

①基礎科目

当該科目に配置される授業科目は、経営系各分野の人材養成の基本となる授業科目です。

②応用科目

当該科目に配置される授業科目は、リーダーシップを発揮できる高度な専門能力を高めるための授業科目です。

③専門科目

当該科目に配置される授業科目は、多様性を活かしながら単体の企業だけでなく、地域、コミュニティとともに総体としての価値を持続的に高め、いくマネジメント能力を養成します。専門科目は大きく4つの領域に分かれています。農林水産業を含む地域の自然資源のマネジメント力を養う「地域資源マネジメント」、人々の多様なニーズに応えた持続的な医療介護保障のマネジメントを学ぶ「ヘルスケアマネジメント」、インターネットを含めた共有の場(コモンズ)のありかたを学ぶ「コモンズマネジメント」に加え、専門的かつ先端的なビジネスやマネジメントを極めるための時代を捉えたテーマを取り上げる「特別テーマ」です。

④実践科目

当該科目に配置される授業科目は、ビジネスを具現化する力や、やり抜く力など、事業創造ができる能力を高めていきます。ビジネスプランを作成し、その実効性を検証することによって実践力の向上を図ります。学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上で、研究科案内・シラバスに配点割合をあらかじめ示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、授業で発展・向上をはかる「知識」、「分析力」、「思考力」、「事業創造力」、「実践力」について、判断する基準を各科目において設けた上で、開講中や期末に行うレポート・筆記試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したり学生相互に評価させたりする方法を用い、総合的に評価します。

入学者受入れの方針 Admission Policy

本研究科は、創造的で活力のある経済社会を持続・発展させるために不可欠な、企業等組織の経営革新や新たな事業創造を絶え間なく実践していくビジネスリーダーを目指す学生を求めています。ビジネスリーダーを目指すにふさわしいチームリーダーを一定期間以上務めるなど、実務経験と社会経験(学生時代の活動も一部含まれる)を持つことを前提としています。次のような意思を持った社会人等の入学を想定しています。

- 》マネジメントの知識と実践力を高め、新たなビジネスを創造したい人
- 》イノベーションを起こし、広島から世界に発信したい人
- 》地域創生に向けて自ら企画し、リーダーシップを発揮したい人
- 》広く人脈を築くために、コミュニケーション能力を向上させたい人
- 》人生の可能性を広げるために、高い意欲を持って経営学を学びたい人

以上のような学生を選抜するために、「オープン入試」、「企業・自治体派遣」の各入学選抜試験において、選抜課題では、読解力、思考力、日本語力、論理力・表現力、着眼力・発想力・課題設定力と積極性を、口述試験では理解力・判断力、日本語力、論理力・表現力、着眼力・発想力・課題設定力と積極性を測ります。

ビジネスリーダーを輩出する教育システム

教育プログラム編成の基本的な考え方



授業科目一覧 4つの科目区分を設定し、実践的な教育を展開

基礎科目 15科目

経営戦略、マーケティング、人材マネジメントといった経営学の基礎を学びます。「使える」経営学を身につけるため、講義形式に加え、ディスカッションを多く取り入れ、自ら考える力を培います。

◆必修科目 ◇選択必修科目
①1単位科目 ②2単位科目 ③6単位科目
★広島・福山2回開講 ☆福山開講のみ

◆現代社会における 先端的マネジメント	◇アカウントニング②	◇マーケティングA①★	◇マーケティング演習①	中四国経済①
◇ファイナンス基礎①	◇ファイナンスA①	ビジネス統計②	ベンチャーの経営戦略②	◇経営組織と 人材マネジメント②
◇企業法務①	◇組織マネジメントと コンプライアンス①	◇経営戦略②★	多様な価値と ファシリテーション②	経営戦略演習①

応用科目 15科目

〈起業する〉、〈イノベーションを起こす〉、〈事業を承継・発展する〉、〈マネジメント力を高める〉を実現するために基礎科目をさらに深め、広げ、応用できる能力を高めます。さまざまな角度から応用力を鍛えるためグループワークを積極的に取り入れます。

マーケティングリサーチ①	マーケティングリサーチ 演習①	マーケティングB①	ファイナンスB①	SME事業経営演習①☆
ヘルスケア情報の マネジメント①	スモールビジネスの ファイナンス②	イノベーション戦略②	多様性と 人材マネジメント②	戦略法務①
上場と コーポレートガバナンス①	戦略としての 社会システムデザイン②	サプライチェーン マネジメント②	生産管理②	事業承継マネジメント②

専門科目 21科目

〈地域資源マネジメント〉、〈ヘルスケアマネジメント〉、〈コモンズマネジメント〉の3つの先端分野に加え、社会のスピードにあわせアドホックに〈特別テーマ〉を設定します。多様性を活かしながら単体の企業だけでなく、地域、コミュニティとともに総体としての価値を持続的に高めていくマネジメント能力を養成していきます。

地域資源 マネジメント	持続可能な 地域資源マネジメント②	アジア型 環境ビジネス創造②	地域ブランド戦略①	デザインマネジメント①	地域事業開発演習②☆
ヘルスケア マネジメント	医療介護経営序説①	医療介護の制度経営②	医療介護の事業経営②	医療介護のイノベーション②	
コモンズ マネジメント	社会イノベーション②	共生社会の理念と実例②	社会的インパクトの評価①	地域における合意形成②	
特別研究 A～H	特別研究A (グローバルビジネスマネジメント)②	特別研究B (IoT社会のビジネス創造)②	特別研究C (経営のリスクマネジメント)②	特別研究D (マネジメントアカウントニング)②	
	特別研究E (サービスマネジメント)②	特別研究F (スタンフォード大学連携科目1)①	特別研究G (スタンフォード大学連携科目2)①	特別研究H (医薬流通のイノベーション)②	

実践科目 2科目

ビジネスを具現化する力や、やり抜く力など、事業創造ができる能力を高めていきます。ビジネスプランを作成し、その実効性を検証します。企業・団体等とも協力、連携して実施していきます。

◆プロジェクト研究1②	◆プロジェクト研究2③
-------------	-------------

※上記は令和5年6月末時点での情報です。今後、変更の可能性あります。

HBMS の特徴的な授業内容

基礎科目

【現代社会における先端的マネジメント】

現代社会における先端的マネジメントについて専任教員全員で行うオムニバス形式の授業です。先端的マネジメントの基本的考え方、基礎的分野における先端的マネジメント、さらには本研究科が提供しているカリキュラムの4つの柱である地域資源、ヘルスケア、コモンズ、特別研究の最先端の知識を講義形式中心に学習します。

応用科目

【SME事業経営演習】

中小・中堅組織 (Small and Medium sized Enterprises) が99%を占める経済において、地域におけるSMEの活性化は不可欠です。本演習では、広島県内のSMEの実態を把握し、SMEが抱える事業課題に対する解決策を研究していきます。さまざまな産業のSMEが存在する備後圏域で、現地視察を行い、ケーススタディ等による事例研究を行いながら、今後のSME事業経営を実践的に考えていくことを目的とします。

【多様性と人材マネジメント】

グローバル化は地域企業や中小企業を巻き込む形で進化しています。本授業では国際経営における人材マネジメントを多様な人材の管理、すなわち「ダイバーシティ・マネジメント」と位置付け、①国際経営の理論、②国際人的資源管理の概要、③多様な人材のマネジメント手法に関して、理論的かつ実証的な考察を行います。

専門科目

【アジア型環境ビジネス創造】

アジア新興国・地域は、中国・インド・ASEAN 主要4カ国・韓国・台湾など国・地域によって成長速度は異なるものの、先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっています。各国・地域が、日本型の産業デザインとマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例をもとに実践を学び、各動向を分析します。

【医療介護のイノベーション】

わが国の医療介護は、少子高齢化の急速な進展、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより大きな転換点に立たされています。このような状況下で政府は、新たな時代に対応した医療提供体制を構築するため、見直しを行っています。本講義では、これからの医療制度や医療提供体制のあるべき姿を探り、医療・介護施設、薬局、関連企業、さらには業界がどのように変化するかなどを様々な事例を交えて紹介するなどし、学びを深めます。

【地域における社会的合意形成】

地域経営に、企業、市民、NPOを始めとする多様なプレイヤーが参画するようになり、立場や価値観の異なる参加者の知見を地域課題の解決に生かす社会的合意形成のあり方が模索されています。本授業では、現代の地域経営に不可欠な「社会的合意形成」の方法論を学びながら、学生自らが社会的合意形成プロジェクトを企画・運営できる力を身につけます。

【グローバルビジネスマネジメント】

グローバル化の進展は、あらゆる産業に大きな影響を与えるとともに、戦略上の重要なテーマになっています。本講義では、グローバルビジネスを取り巻く環境変化を理解した上で、①企業、②市場、③調達・生産等におけるグローバル化について、事例をもとにグループワークやプレゼンテーションを交え実践的に学習します。

【IoT社会のビジネス創造】

これからの社会やビジネスを大きく変えていく可能性を秘めるInternet of Things「モノのインターネット」と呼ばれる技術を技術的に深入りしないように学びつつ全体像を理解してもらいます。また、IoTを利用したサービスの現状調査をした上で、実装や実現をイメージしつつIoTを利用したビジネスを考案してもらいます。

【サービスマネジメント】

社会変化に適応し、進化を続ける「サービス」の現場に密着した講義とワークショップにより、「サービス」の根源から先端に至るビジネスの実態とマネジメントの構造について把握し、ユーザの行動変容の分析をとおして、多様な連携を伴った事業構想や時代をゆく戦略立案を行います。

修了要件 2年以上在籍し、必修科目、選択必修科目、及び各科目区分の必要単位数を満たし、34単位以上を修得することが必要です。

科目区分	基礎科目	応用科目	専門科目				実践科目 (すべて必修科目)	合計
			地域資源 マネジメント	ヘルスケア マネジメント	コモンズ マネジメント	特別研究		
必要単位数	10単位以上 (うち選択必修科目 8単位以上)	8単位以上	8単位以上				8単位	34単位以上

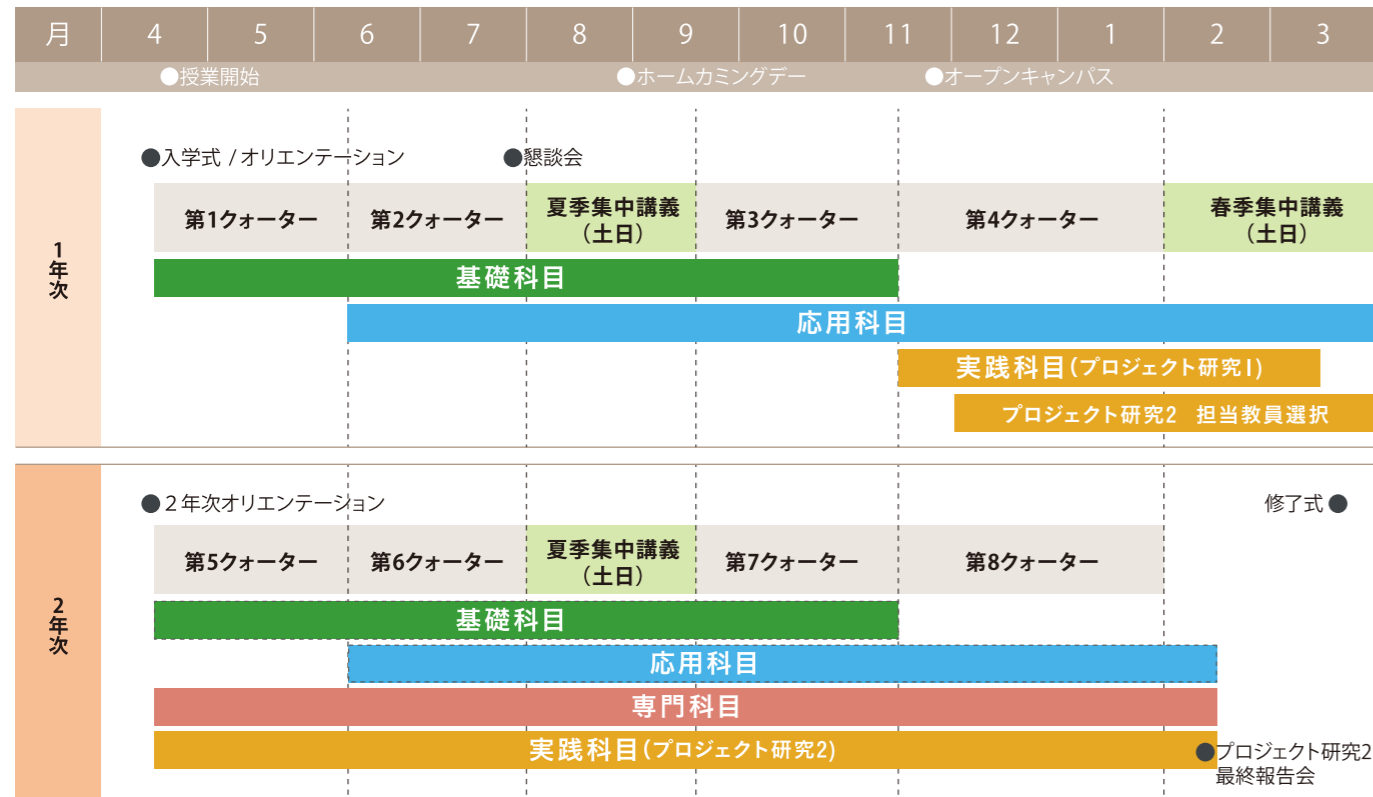
社会人に配慮した学修環境

HBMSでは働きながら学ぶための環境が整っています

- HBMSのMBAプログラムは2年制(日本語プログラムのみ)で、入学時期は4月の年1回です。
- 1年間を4つの学期に分割した「クォーター制」を採用しています。(2年間・計8クォーター。)
- 3月に入学前オリエンテーションや単位外の入門科目(オンライン講義が主)等の事前学修が始まります。
- 1年次は、基礎科目・応用科目が主となります。戦略・マーケティング、アカウントティング・ファイナンス、人事管理等、経営に関する知識・スキルを実践的に学ぶ選択必修の基礎科目から始まり、テーマ別の応用科目を興味に応じて学修します。第4クォーターからは実践科目「プロジェクト研究1」が始まり、2年次の「プロジェクト研究2」に取り組むテーマ(事業計画やプロジェクトの内容)を検討の上、担当教員の選択があります。
- 2年次は、専門科目・実践科目(プロジェクト研究)を中心に、興味に応じた学修を深めていきます。第8クォーターに最終成果物の提出や最終報告会(発表会)があります。
- 社会人学生が年間を通じて学べるよう大学が定める夏季休業期間、春季休業期間には集中講義があり、土日等に集中して学ぶ授業科目等が配置されています。
- 教育課程上の履修要件を満たす限り、各人の興味に応じ自由に授業科目を選択して履修できます。各人の履修の選択によって変動しますが、平均的な受講頻度は土曜を含め週2〜3日程度の通学(オンライン受講含む)です。
- HBMSの授業は原則、日本語ですが、国際交流協定を締結している海外大学等と連携した授業科目もあります(英語等の講義の場合、原則通訳有り)。
- 国際交流協定締結大学への訪問プログラム(海外研修)や来日受入プログラムなどが計画される年度があります(単位外プログラム)。

<p>授業時間</p> <p>平日18:30〜21:30(2時限)、 土曜日9:00〜19:30(6時限)に開講</p>	<p>通学頻度</p> <p>土曜日を含め週に2〜3回程度の通学^{*1}で、 2年間でMBAの学位を取得 (^{*1} 平日は1〜2回程度の通学)</p>
<p>受講方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義系科目は、ハイブリッド(対面・オンライン)で実施(オンライン受講は上限8単位) ・演習系科目は、原則対面で実施 ・広島キャンパス(南区宇品)で開講^{*2} <p>(^{*2} 一部福山市内で開講)</p>	<p>集中講義</p> <p>大学が定める授業外期間である夏季休業期間(8〜9月)・春季休業期間(2〜3月)の週末には、集中講義型授業を開講(主に土日・祝日)</p>

HBMSの年間スケジュール



1科目から受講できるMBA単科受講制度(科目等履修制度)

HBMS入学前に科目を受講できる制度があります

単科受講制度(科目等履修制度)とは、HBMSの本科へ入学せずに、実際のHBMSの授業を受講し、単位を修得できる制度です。1科目から受講できるので、仕事・プライベートの都合を考慮して受講を決めることができ、色々なメリットがあります。

1科目から本科生と同じ授業を受講

クラスでのディスカッション、グループワークなど本科生と同じ環境で受講ができる
ご自身の学びたい科目のみを受講できる^{*}
(^{*}単科受講が可能な科目一覧は、募集要項をご確認ください)

受講後に本科への出願が可能

学修の分量や通学にかかる負担が分からないなど、仕事やプライベートとの両立が不安な方でも、実際に受講した体験を基に本科への出願を検討できる

単位が無駄にならない

修得した単位は、本科生として入学後に本学が認めれば、既修得単位として17単位まで認定される
これにより、入学後に修得必要単位数が減り、学修スケジュールに余裕が生まれる

4月と9月の年2回の入学チャンス

HBMS入学の検討を始めてから本科生の出願を待つことなく、学び始めることができる

単科受講(1年)から本科に入学した例

単科受講は半年単位・年2回募集です。

4月入学: 第1・2クォーター及び夏季集中(4月〜9月) 9月入学: 第3・4クォーター及び春季集中(9月〜3月)

MBA単科 [*] (単科受講生(科目等履修生)としての入学)				MBA本科 (2年間)		MBA学位取得 (34単位)
1年目				1年目	2年目	
4月入学	9月入学	同年4月入学者の継続受講の場合、 入学選抜料・入学料免除	4月本科入学	3月本科修了		
第1クォーター	第2クォーター ・夏季集中	第3クォーター	第4クォーター ・春季集中	1年次	2年次	
(例) 科目等履修生として4科目8単位履修した場合 (1科目/クォーターあたり)				入学後26単位以上の修得で 修了可		

^{*}複数年にわたって単科履修が可能(但し1年ごとに科目等履修生として再入学手続き必要)

科目等履修生募集スケジュール

	前期募集 第1・5Q、第2・6Q夏季集中	後期募集 第3・7Q、第4・8Q春季集中
募集要項公表(HP)	1月下旬	7月中旬
出願期間	2月中旬〜3月上旬	8月上旬〜8月中旬
選抜結果通知	3月中旬	9月上旬
入学時期	4月上旬	9月下旬

科目等履修生に係る経費

選抜料	9,800円
入学料	県内の方 28,200円 県外の方 39,480円
聴講料	1単位あたり14,800円 ※1単位と2単位の科目があります



経営管理研究科長

横山 禎徳

Yoshinori Yokoyama

ビジネスとマネジメントの語源を調べてみると、ビジネスは「気遣い(Care)」、マネジメントは「じゃじゃ馬を馴らす」という意味から始まったそうです。ということは大学や大学院で通常扱うような学問ではなく、「身体知」というべきものです。頭で分かっただけでは十分でなく、行動を通じて体で理解することが必要です。明らかに賢くてセンスのいい、そして人々が納得してくれるような効果を上げるやり方があります。「身体知」という高度スキルです。そういう高度スキルを訓練の継続を通じて身につけていくところがHBMSという「場」なのです。図らずもこの「場」に参画することで、予想もしなかった新しい考え方、見方、やり方に出会うことになるはず。そして、もっと大事なことは、HBMS以外では決して知ることのなかった人々に出会うことになるでしょう。HBMSは、このような新しく刺激的な「出会い」の場であり続けたいと思っています。

■専門分野

戦略マネジメント、社会システム・デザイン、組織デザイン、ファイナンス、M&A

■学歴・職歴

東京大学工学部建築学科卒
ハーバード大学院都市デザイン修士、MITスローン大学院MBA
マッキンゼーアンドカンパニー東京支社長

■主要著書

『組織——「動ける組織」のデザイン 25のポイント』2020年、『社会システム・デザイン—組み立て思考のアプローチ』2019年、『デザインする思考力』2014年

我々を取り巻く社会システム及環境は、多様にかつ急激に変化してきています。この変化に適応していくためには、新しい視点でビジネスや事業の発想をしていかなければなりません。

グローバル社会による「世界と日本」、地方創生における「都市と地方」、市場経済社会が生み出した「企業と消費者」、経営戦略や企業競争の結果としての「勝ちと負け」、製品やサービスの「品質と価格」。これらの2つの対立軸やトレードオフ関係は、今までのマネジメントでは当たり前のように使われてきました。「個人と組織」もその1つです。これからの時代は、「個人価値」や企業を含めた「組織価値」から第3の軸である「地域や社会の共有価値(コモンズ価値)」への転換が求められるようになってきています。HBMSはこのような時代の中で、イノベーションにより常に第3の軸を追求し、新しい価値をコモンズ価値へと発展させることができるリーダーを育成することを目指し、多くの分野からの学生のためにプログラムを提供します。

■専門分野

マーケティング、マーケティング・リサーチ、地域ブランディング、防災マーケティング

■学歴・職歴

慶應義塾大学商学部卒業 慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了
慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学
文化女子大学(現文化学園大学)専任講師、准教授を経て、教授

■主要著書・論文

『循環するファッション—新しいデザインへの挑戦—』文化出版局、2013年(共同監訳・監修)、『戦略的マーケティング:レピュー、体系、ケース』芙蓉書房、2008年(部分執筆)



ビジネス・リーダーシップ専攻長/教授

江戸 克栄

Katsue Edo



教授 安達 巧 Takumi Adachi

■専門分野

起業、会計、企業法、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス

■学歴・職歴

博士(経済学、東北大学) & 修士(法学、東北大学)。会社及びコンサルティング事務所経営を経て現職

■主要著書

『コーポレートガバナンスと監査と裁判所』ふくろう出版、2014年、単著。日本図書館協会選定図書
『コンプライアンス—ハラスメント事例研究—』ふくろう出版、2018年(編著・共著)
『不正会計とわが国の投資家保護』ふくろう出版、2020年(単著)
『アントレプレナーシップと戦略経営—ビジネススクールでの実践—』ふくろう出版、2021年(監修・共著)

一般事業会社経営(代表取締役社長)や税理士資格も活かした経営コンサルティング事務所経営(代表)の経験があり、経営「現場」(実務)に通じています。また、法律にも詳しいです。実効あるコーポレートガバナンスやコンプライアンスがイノベーションを促進する役割を果たすことを熟知したうえでイノベーション人材(アントレプレナー)育成を行っています。



教授 遠藤 邦夫 Kunio Endo

■専門分野

病院及び薬局経営、医薬品流通、製薬産業

■学歴・職歴

矢野経済研究所入社
文部省統計数理研究所委託研究員を兼務
矢野経済研究所ライフサイエンスユニットフェロー

■主要著書・論文

『看護経済学』法研(2002年9月、共著)
その他、矢野経済研究所から医療等に関するレポートを多数執筆

医療について川上(行政)から川下(医療機関、薬局など)までで生じている変化を調査・分析し、そこで活動を行っているさまざまなプレーヤーにどのような影響を及ぼすのか。さらには、その変化に対してどのような対応策を講ずることが有効なのかなどを研究しています。また、実際に医療関連企業などに対してコンサルティングを行っており、実践的な経営戦略の最新の情報を基に研究を進めています。



教授 木谷 宏 Hiroshi Kitani

■専門分野

人的資源管理論、ダイバーシティ・マネジメント、経営組織

■学歴・職歴

東京大学経済学部経済学科卒業 ジョージ・ワシントン大学大学院公共政策研究科修士課程マーケティング専攻修了(MBA) 中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程総合政策専攻単位取得退学 博士(経営学、麗澤大学) 食品企業 経営企画部長 学習院大学経済学部特別客員教授 麗澤大学経済学部教授を歴任

■主要著書・論文

『「人事管理論」再考 多様な人材が求める社会的報酬とは』生産性出版、2016年
『ビジネスキャリア検定標準テキスト 人事・人材開発2級』社会保険研究所、2014年(監修)

人事管理論(または人的資源管理論、人材マネジメント論)は経営学において模索を続ける比較的新しい研究領域です。組織の視点による「働かせ方」と個人の視点による「働き方」を結び付け、変化し続ける社会における「働くこと」の意義とあり方に焦点を当てた研究を行っています。



教授 七田 良彦 Yoshihiko Shichida

■専門分野
ファイナンス、管理会計、経営学、リスク・マネジメント

■学歴・職歴
慶應義塾大学経済学部卒業、三井物産株式会社経理部、米国三井物産株式会社経理部 (New York)、物産ナノテク研究所 取締役 (在茨城県つくば市)、PT物産オートファイナンス 取締役 (在Jakarta)、三井物産エレクトロニクス 常務取締役、三井農林 取締役、サンエイ糖化 取締役 他、青山学院大学非常勤講師、亜細亜大学非常勤講師 (兼務)

40年の実務 (総合商社: CFO部門) を通じ内外の各拠点 (含む子会社) で事業経営の経験を積み重ねました。経営環境の想定外の変化 (急速な円高、通貨危機、流動性危機、テロ、大震災等) に直面、その対応策を現場で考え、実践し、一定の成果を上げる、という生きたリスクマネジメントを経験しています。



教授 早田 吉伸 Yoshinobu Soda

■専門分野
経営戦略、新事業開発、サービスデザイン、DX (デジタルトランスフォーメーション)

■学歴・職歴
日本電気株式会社 (NEC) 経営企画本部マネージャー、社会公共ビジネスユニット本部長代理、内閣官房IT総合戦略室主幹 他、博士 (システムデザイン・マネジメント学) (慶應義塾大学)、中小企業診断士、地域活性化伝道師 (内閣府)、ひろしま環境ビジネス推進協議会会長

■主要著書・論文
「地域イノベーションのためのインクルーシブデザインプロセス」公共コミュニケーション、2020年
「国内外事例分析に基づく日本型フューチャーセンターのデザイン」地域活性研究、2012年 他

イノベーションをテーマに社会システムとビジネスシステムを対象に学際的な研究をしています。理論研究にとどまらず、企業や行政機関での実務経験をもとに、成果の実現や社会実装を目的として実証的に行っています。



教授 露木 真也子 Mayako Tsuyuki

■専門分野
社会イノベーション、社会起業家、社会的企業、地域間比較研究、援助・地域協力

■学歴・職歴
金沢工業大学大学院工学研究科知的創造システム専攻修士・修士 (工学)、東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻修士・博士 (学術)、特定非営利活動法人国際社会起業サポートセンター理事長

■主要著書・論文
『社会貢献によるビジネス・イノベーション―「CSR」を超えて』丸善出版、2012年 (共著)
『社会イノベーションの普及志向』日本地域政策研究、2017年 (単著)

未来のありたい姿をインパクト・ゴールとして共有し、一丸となって社会的課題の解決に取り組むための場づくり・枠組みづくりに寄り添いながら、誰一人取り残されない地域共生社会の実現に貢献していきたいと思っています。



教授 百武 ひろ子 Hiroko Hyakutake

■専門分野
合意形成、ソーシャルデザイン、まちづくり、感性哲学

■学歴・職歴
早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学大学院理工学研究科修士課程修了、野村総合研究所研究員を経てハーバード大学デザイン大学院都市デザイン修士修了 (MLAUD)、東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻博士課程修了・博士 (工学)、一級建築士

■主要著書・論文
『食生活のソーシャルイノベーション』見洋書房、2020年 (共著)、『環境と生命の合意形成マネジメント』東信堂、2017年 (共著) 他多数

地域課題解決を目的とした市民参加型合意形成プロジェクトの企画・運営の経験をもとに、多様な主体によるコミュニティ運営の開発および合意形成をマネジメントできる人材育成について主に研究を行っています。



教授 毛利 信作 Shinsaku "Sam" Mori

■専門分野
マーケティング、グローバルマネジメント、サプライチェーンマネジメント、アグリカルチャー、トレーディング

■学歴・職歴
早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、三菱商事株式会社農産部、Sesmark Foods, Inc. President & CEO (アメリカ)、TH Foods, Inc. President & CEO (アメリカ)、三菱商事株式会社農産部長、同関西支社食料部長、三菱食品株式会社取締役常務執行役員酒類事業本部長、同取締役常務執行役員関西支社長、タイ、ベトナムにて複数の食品会社を立ち上げる。株式会社サラダクラブ、日東富士製粉株式会社等国内外で社外取締役を務めた他、神戸検査協会会長や関西在流通各社主催の会の幹事も務めた。

■主要著書・論文
『「国際政治論考」 - 国際政治のパラダイム』PAX創刊号、1982年、『タイ国に於ける投資環境』輸入食糧協議報、1988年他

商社及び関連会社での国内外での幅広い実経験と経営の実績に裏打ちされた、学問にとどまらない実践的なビジネスモデルとビジネス・マネジメントに関して掘り下げています。



教授 吉川 成美 Narumi Yoshikawa

■専門分野
農業と持続可能な地域ビジネス、自然資源管理、CSA (Community Supported Agriculture) 食料システム構築

■学歴・職歴
上智大学文学部卒業、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科環境と可能な発展論専攻修士 (修士 国際関係学)、東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了 (博士 農業経済学)、西安交通大学公共政策管理学院研究員・講師、早稲田大学教育・総合科学技術院非常勤講師、早稲田大学食と農の研究所招聘研究員

■主要著書
『食生活のソーシャルイノベーション』見洋書房、2020年 (共著)、『クライメイト・チェンジ』清水弘文堂書房、2018年 (監修・共著)、『共生主義宣言』コモンズ出版、2017年 (共著) 『高島学』藤原書店、2011年 (共著)、『中国の森林再生』御茶ノ水書房、2009年 (共著)

修士課程では国際関係学、環境と持続可能な発展論を、また博士課程では農業と食の環境に研究対象を絞り、農業経済学を基盤としました。現在は、環境と持続可能なマネジメント、さらにはレジリエントな経営とは何かを、広く人びとが参加可能なCSA (Community Supported Agriculture) 農業と食の実践から研究しています。



准教授 **高橋 陽二** Yoji Takahashi

■専門分野
アントレプレナー、ベンチャー・ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、コーポレートガバナンス、アントレプレナーシップ

■学歴・職歴
大阪市立大学(現・大阪公立大学) 商学部商学科卒業、神戸大学大学院経営学研究科市場科学専攻博士課程前期課程修了・修士(商学)、同後期課程修了・博士(商学)、岐阜聖徳学園大学経済情報学部専任講師・准教授、米国ハワイ大学マノア校シンドラービジネススクール客員研究員

■主要著書
『知識の基盤になるファイナンス』中央経済社、2018年(共著)、『オープン・イノベーションのマネジメント』有斐閣、2015年(共著)

創業して企業が成長する過程のファイナンス(資金の調達、投資)について実証的に研究しています。とりわけ、ベンチャーキャピタル(VC)、新規株式公開(IPO)を主要な分析対象としています。企業の成長過程で生じる様々なファイナンス上の課題を対象に、多面的なアプローチで取り組んでいます。



准教授 **土本 康生** Yasuo Tsuchimoto

■専門分野
インターネット、情報セキュリティ、オンライン教育、ICT×ビジネス、国際化

■学歴・職歴
博士(政策・メディア)(慶應義塾大学)、慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別研究講師、Asian Institute of Technology (Thailand) Visiting Assistant Professor、東京大学 情報理工学系研究科/工学部 国際工学教育推進機構 特任講師、横浜商科大学商学部経営情報学科 准教授

■主要著書・論文
『入門SNMP』オライリージャパン(監訳)、『TCP/IPネットワーク管理』オライリージャパン(監訳)、『インターネットの普及を目的としたネットワーク管理者育成モデルに関する研究』慶應義塾大学博士論文、『インセンティブ提示型デジタルレバレッジ解決手法の提案と実施』電子情報通信学会(共著)、『Bandwidth Adjustable DVTS on the Heterogeneous Internet Environments for Distance Learning』SAINT(共著)

今後も社会を変える基本技術としてインターネットが存在し発展し続ける中、インターネットに関する研究を工学に限らず教育学や経営学、社会学など学際的な文脈で語ることで幅広く社会に貢献していきます。身の回りのあらゆるモノやコトを、インターネットを利用してどのように活性化し、新たなサービスや仕組みを作っていくかを皆さんと一緒に研究していきたいと考えています。



講師 **礒貝 日月** Hizuki Isogai

■専門分野
人類学的思考と経営、中小企業マネジメント、出版・編集、環境/民俗分野のフィールドワーク

■学歴・職歴
慶應義塾大学総合政策学部卒業、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科前期博士課程修了、総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻後期博士課程中途退学、早稲田大学教育学部 兼担講師、学術出版社代表取締役を経て現職

■主要著書
『アサヒ・エコ・ボックス』アサヒグループホールディングス株式会社/アサヒビール株式会社、2001-2021年(編集発売)、『蒼いお屏のぼくとときみ。カナダ極北のイヌイット 内なる心の旅』清水弘文堂書房、2007年(単著)、『マナブト イヌイットの国その日その日 テーマ探しの旅』清水弘文堂書房、2001年(単著)他

これまでの約20年間、出版実務全般に携わりながら会社経営をしてきました。また人類学のフィールドワーク経験をもとに大学で講義、フィールドワークの設計・引率などの教育活動に携わってきました。経営(おもに中小企業経営およびマネジメント)×人類学(フィールドワーク)の実践的融合を目指しています。

地域貢献

文部科学省BP(ブラッシュアップ・プログラム)認定・履修証明プログラム

■HBMSプロフェッショナル人材育成講座(福山開講)

経営戦略・マーケティングの基礎知識が修得できる「経営戦略」・「マーケティングA」、市場環境分析・事業計画策定やプロジェクト立案の手法が体得できる「地域事業開発演習」の3科目で構成する福山開講の特別パッケージ・プログラム。取得単位は本科入学後、修了に必要な単位数への参入可。



文部科学省BP(ブラッシュアップ・プログラム)認定・履修証明プログラム

■公的病院幹部を対象とした医療経営人材養成プログラム

公的病院等が地域医療を守るために社会から期待される診療機能の役割を果たし、かつ持続可能な医療を提供するために病院経営力を養う医療経営人材養成プログラム。公的病院の幹部を対象にした地域医療経営に関する体系的な学びと訓練の機会を提供。



履修証明プログラム

■竹原地域次世代ビジネスリーダー養成講座

中小企業・中小規模組織の新規事業開発という観点から「新たなビジネスの型」をつくることを目的とした、竹原地域の産業構造・課題等に着目した次世代を担う経営人材・ビジネスリーダーの養成を目的としたプログラム



広島県農林水産局主催(HBMS監修・講師派遣)

■アグリ・フードマネジメント講座 ～ひろしまファーマーズテーブル～

未来に繋がる農と食のビジネス人材の育成のためにHBMSが独自に開発したカリキュラム。最先端の分野で活躍するゲスト講師の講義とMBA教育を基盤にした実践的ワークショップにより、Farm to Tableのこれまでにない価値を生み出し、自らの経営感度を高め、収益性の高い経営の実践力を高めていきます。



三原市主催(HBMS監修・講師派遣)

■スタートアップ 創出シテカレッジ

起業や社内ベンチャー向け事業構想とその実現のための実践型講座であり、HBMS講師陣によるMBA理論編と起業家による実践編を融合し、地域の活性化と経済の発展を目指す新しいカタチのスタートアップ・プログラム



※各パンフレットの掲載写真は、過年度発行のものを含みます。

在学生のスケジュール

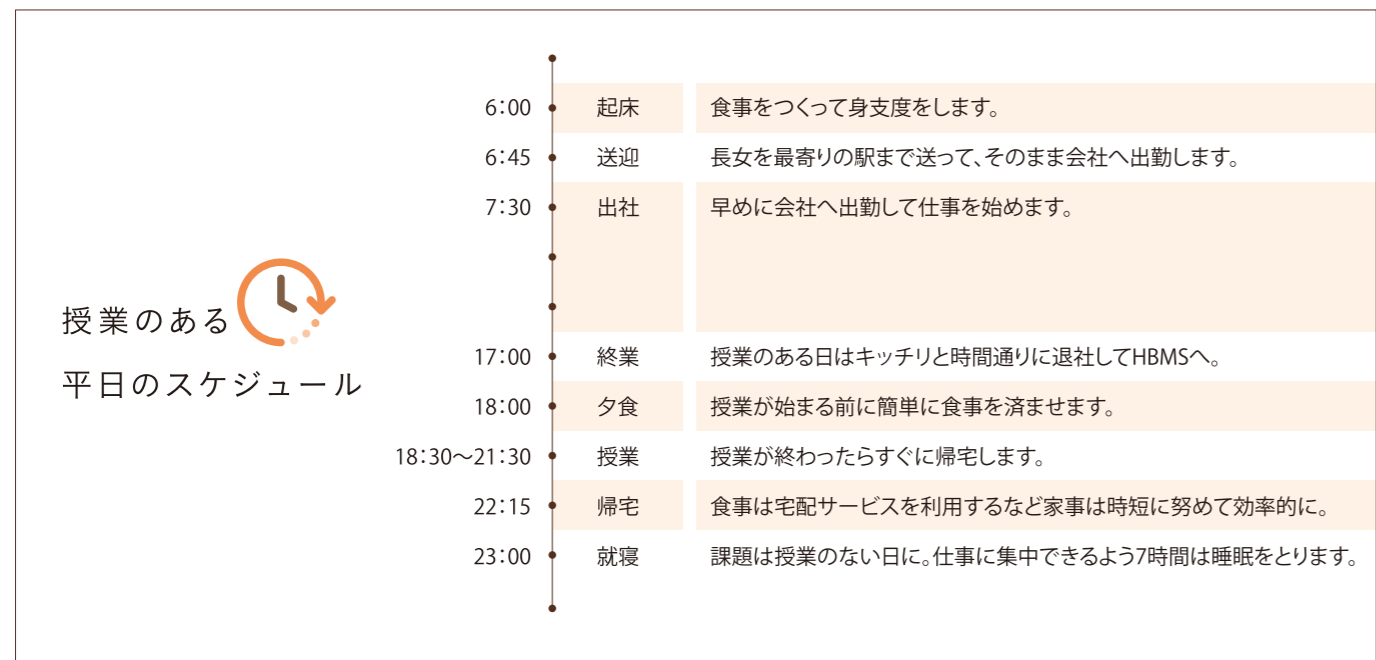
結城 奈津子さん HBMS 1年生(8期生)
マツダ株式会社 MDI & IT本部 グローバルIT業務部 システム戦略統括グループ シニア・スペシャリスト



自動車メーカーのIT部門に所属しており、昨年から採用や研修を担当するようになりました。以前、広島県庁へ出向していた際に、異なる環境で「学ぶ」ことの大切さを感じたこともあり、人事を担当するには軸となる経営の知識が必要と感じ、大学院への入学を決意。働きながら広島で学べること、オンラインではなく対面授業中心であることから、HBMSを選びました。子供の進学に合わせて私もHBMSに入学し、大学院生活をスタートさせました。いざ始めてみると、家族みんなの生活環境が一変したことで、気付かないうちに心身に負担がかかり、仕事にも学習にも支障が出てしまいました。楽しいはずの学びが苦行になりつつあったため、第2クォーターからは履修を見直し、自分なりに2つのルールを設定。睡眠時間は削らない、子供の物理的サポートは減らすけど会話や団らの時間は減らさない、と決めて、限られた時間でできることに集中して学ぶスタンスにシフトしました。勤務先のスーパーフレックス制度とリモートワーク制度のおかげで、家庭や仕事と両立できています。また、家庭や仕事の状況に合わせて、履修をコントロールできることもHBMSの魅力の一つだと思います。授業では毎回のようにレポートを書き、プレゼンテーションを繰り返しながら、学生同士でのフィードバックもあるので、「伝える力」が鍛えられていると感じています。HBMSでの学びは、どのような事業に携わるとしても、共通して役立つ知識やスキルです。仲間とともに授業やディスカッションを積み重ねて、良い意味で自分の枠を壊して、今後の方向性を見出していきたいと思っています。

第2クォーター(6月中旬～8月上旬)の結城さんの1週間の時間割

時限	月	火	水	木	金	時限	土曜日
						1・2限 9:00～12:10	
						3・4限 13:00～16:10	アカウントینگ
6・7限 18:30～21:30		<クォーター後半> 経営戦略演習		<クォーター前半> ファイナンス基礎 (オンライン)		5・6限 16:20～19:30	



國清 泰臣さん HBMS 2年生(7期生)
株式会社広島ホームテレビ 経営マネジメント本部 イノベーション推進室 プロジェクトリーダー



地元放送局で新規事業創造を目的とした部署に勤務しています。社会人人生の半数以上(9年間)をビジネス領域とは程遠く、ある種特殊なスポーツ現場で放送業務にかかわってきた中で、同世代がHBMSに通っているという話を耳にするようになり、自分自身も40歳を前に「このままではいけない」と一念発起しHBMSの門を叩きました。1年目はビジネスリーダーに必要なとされる経営戦略や人材マネジメントなどの基礎科目を受講。学び始めて1年が過ぎ、「社会で起きていることはこういうことなのか」「物事の考え方はこういうことかも」と、点と点が線になるように、それぞれに学んだ知識が徐々に繋がっていく感覚があります。入学前は事業創造を目指す中で、何をどうすればいいか想像もつきませんでした。体系的に学ぶことで、ビジネスを成功に導くための「道しるべ」を手に入れることができていると感じています。これまでの常識が、常識ではなくなっているように、世の中が目まぐるしく変化している状況で、これからますますインプットとアウトプットが重要になってくると考えます。HBMSで学びを通じて、この2年間で終わりではなく、学び続けることの大切さにも気付くことができました。今、HBMSには約200人の修了生ネットワークがあります。世代や立場を超えて同じ志をもつ人たちの繋がりを育てることは何よりも代えがたく、まさに、「広がる。そして、変わる。」を体現している場所だと感じています。将来この繋がりを活かして、新たなビジネスを生み出すことが自分の目標です。

第5クォーター(4月上旬～6月中旬)の國清さんの1週間の時間割

時限	月	火	水	木	金	時限	土曜日
						1・2限 9:00～12:10	特別研究B (IoT社会の ビジネス創造)
						3・4限 13:00～16:10	
6・7限 18:30～21:30			社会イノベーション			5・6限 16:20～19:30	プロジェクト研究 2



修了生インタビュー

※所属先については、令和5年6月末時点での情報です。

吉原 亜矢子さん HBMS 1期生 株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション エリアプロデュース事業部 副部長

HBMSの学びと2度のキャリアチェンジで目指すステージへ



グローバルとローカルをつなぐ仕事がしたいというぼんやりとした想いを抱えながら、自分が成長できる道を模索しており、将来的に自分がやりたいことを見つけた時に経営の勉強をしておけば選択肢が広がるのではないかと期待が入学のきっかけでした。在学中は広告会社に勤めておりましたが、修了後グローバルビジネスへ関わるチャンスが訪れ、海外進出支援コンサルタントへ挑戦。その後、現職の観光における事業開発や地域づくりなど地方創生コンサルタントに従事。キャリアチェンジで培ったグローバルビジネスでの実践・経験とHBMSでの学びにより、今ではインバウンド観光に携わることで「グローバルとローカルをつなぐ」仕事ができるステージに立っていると実感しています。また、修了から5年以上経った現在でも修了生同士のネットワークは健在で、共にビジネスをしたり、お互いに影響を与え合う関係性を継続しています。今後は、せとうちを世界一の観光地にするため、修了生ネットワークを活かし、せとうちエリアの活性化に貢献していきたいと思っています。

石原 かおりさん HBMS 3期生 株式会社 Happy relations 代表取締役 一般社団法人ソーシャルケアビューティー 理事

中年の転換期を学び直しにより軌道修正

2010年に美容室をメインとしたコンサルティングの会社を設立しました。起業してから勤と経験と体力任せで事業を進めていましたが、顧客に対して最先端のサービスを提供するには、自分自身ももっと学ぶ必要があると感じていました。HBMSで学んだことで、良かったことはたくさんありますが、人とのつながりを持てたこと、考え方を学び直せたことが特に大きかったと振り返ります。経営に必要な知識を学べるだけでなく、自分で考え、実践して、検証することをできるだけ早く回すこと(PDS)を自然とできるようになったことは実務でも存分に活かしています。当時は漠然とわかったような気になっていたSDGsやコモンズなど物事の本質に触れ、わかるようになるまで学べたことも私にとって収穫だったと思います。私の仕事の仕方は、入学前までは美容室の営業後の時間帯や土・日曜に及ぶこともあったため、初めは、仕事と学業の調整に苦労しましたが、これまでやっていた業務を人に任せると、タイムアップするかの二択で整理しました。今では在学中に行っていた時間のやりくりを継続し、基本的に土・日曜は休みに。仕事のスタイルを見直すよききっかけにもなったと思っています。



松本 博治さん HBMS 6期生 株式会社ダイセル 大竹工場生産部 セルロース室 担当リーダー

突破のカギは方程式ではなくアスピレーション



社内の長期ビジョン策定プロジェクトに参画した際、事業の変革や組織のイノベーションに関する知識がないことを痛感。知識だけでなく、実践を通して学んでみたいと考え、HBMSの門を叩きました。入学当初は、成功や失敗といった多くの事例を学び、共通要素を理解すれば成功の黄金律が浮き彫りになると考えていました。しかし、2年間の結論は「そんなものはない!」ということ。成功企業の中には、従来の常識では非効率とも見える手段を選択し、イノベーションのジレンマを華麗に、泥臭く突破していました。成功の方程式はなく、さらに一見すると非効率なやり方であればあるほど、その一歩を踏み出すには勇気が必要です。この壁を超えるには、ベースとなる知識や理論はもちろんですが、強烈なアスピレーションが絶対条件です。業種も立場も年齢も違う同期とともに、それぞれが抱えるリアルすぎる課題、ジレンマ、そして夢を語り、共感しあうことで私の世界は一気に広がりました。世の中には無数の課題が存在していますが、その見え方、捉え方は2年前と大きく変わりました。人生に大きなインパクトを与えてくれるHBMSでの学びを通して、「誰かがやる。ではなく、自分たちがやる」というアスピレーションを持って、ともに新しい未来を描いてみませんか。

水谷 之則さん HBMS 2期生 ホリディ・イン&スイーツ新大阪 総支配人

能動的に攻める姿勢をホスピタリティ業界に生かす



人生40代に突入した時、自分は現状の役職に見合った仕事をしているのか、このまま同じキャリアで上をめざすのか、さまざまな迷いが生じ新しい刺激を求めてHBMSでの学びを決意しました。修了後大阪の外資系ホテルに転職し、現在は総支配人を務めています。HBMSで「マネジメント力を高める」能力開発を中心に実践的に鍛えられたおかげだと実感しています。ホテルなどのホスピタリティ業界は、コロナ禍にあって大きなダメージを受けました。回復基調の中、地域資源の活用や地域の魅力の創出・発信など、能動的な動きが今できているのはHBMSでの学びがあったからこそです。そして、人生の転機を迎え、何より財産となったのは多くの創造的かつ挑戦的な人たちとの出会いでした。利害関係なく他人と話せる機会は社会人にとってなかなかありません。HBMSで共有したあらゆる夢や悩みは、人としての器を大きくしてくれるものと確信しています。実は、昨年少し時間を作ってHBMSで短期間の講義を履修しました。HBMSは戻っていく場所であり、人生の中でとても心地いい空間だとあらためて思います。

小林 靖孟さん HBMS 5期生 広島市立北部医療センター安佐市民病院 救急科 副部長 (広島大学 救急集中治療医学教室 所属)、日本救急医学会 救急科専門医

新たな視点を手に入れて理解の幅を広げる

救急科の専門医として経験を積むなかで、指導的立場となりマネジメントや部門間連携の面で力不足を感じていました。私自身、専門技能を社会の価値に変換したいという思いがあったことから、医学博士や公衆衛生学、病院経営の修士ではなく、ビジネス的知見を広げるためMBAを目指しました。知識やコミュニティを広げるため、アカウントティング、ファイナンスなど医療とは関わりのない科目を積極的に履修するよう心掛けました。その副次的な効果として、本来の専門である医学・自然科学の視点に加えて、経営・社会科学の視点を獲得ことができ、2つの視点で物事をより深く理解できるようになったと感じています。ともに助け合い、悩み、刺激あつた同期の絆は固く、未だにみんなで集まってアイデア出しをしたり、ディスカッションをしたり、まるで学生の延長のようです。今は、同期が立ち上げた「ひろしまりビングラボ」など、まちづくりの活動にも参加しています。今後は救急医としての専門性も磨きつつ、医療や社会の課題解決に貢献できる人材になりたいと考えています。



登 景子さん HBMS 4期生 株式会社ケン・リース FROM EATS PR 担当

学びやスキル活かし 地域経済の循環を形に



HBMSのゼミ仲間が研究の一環として取り組むなかで発案して立ち上げた、FROM EATSという事業に修了後からチームメンバーとして参画しています。FROM EATSは、「食でまちを笑顔に!」をスローガンに掲げた、つくる人(生産者・飲食店)と、わたしたち食べる人(消費者)との繋がりをより豊かにすることを目指したプロジェクトです。地元野菜の定期便を軸にしたサービスと、農や食を楽しむコミュニティづくりに取り組んでいます。ブランドをつくりあげていく段階なので、まさにマーケティングの授業で学んだことを実践しながら、改めて学び直しをしています。在学中は、異業種の同期たちから多くの刺激を受け、講義やゼミでの学びを通じて、今いる場所で自分が目指したいものが明確になりました。「心が豊かになる地域経済の循環をつくりたい」という想いを共有する仲間に出会えて、FROM EATSの事業に参画できたのも全てHBMSがあったからこそ。授業時間以外にも家で取り組む時間も多かったのも、サポートしてくれた家族にも感謝しています。



HBMS COMMUNITY

(県立広島大学MBA同窓会)



HBMS COMMUNITY 会長
水木 智英さん

HBMS 5期生
中電技術コンサルタント株式会社
(プロジェクトマネージャー) / ノー般社団法人HLL (代表理事)



会報誌

HBMS COMMUNITYは、HBMSでの2年間の学びを修了した後も、お互い学び続けることができる場として、また、修了生、在学生の学年を超えた縦のつながりや、教職員の先生方との継続的なつながりを創出することを目的として設立されました。現在、会員は約240名を数え、その活動の幅を広げているところです。

もとよりHBMSの目指すところは、広島から次世代を担うビジネスリーダーを育成し輩出することですが、その果実は、修了生が変革を生み出し、地域を牽引していくことによってこそ得られると考えています。こうした考えのもと、HBMS COMMUNITYは、様々な知や高度技能へのアクセスを可能とし、変革を生み出すネットワークとして機能することで、HBMSと両輪をなすことを目指しています。

私は、学びは在学中に終わるものではなく、むしろ修了してからがスタートだと考えています。HBMSでは修了後も続く一生モノの友人、同士、そして夢をカタチにするチャンスが得られます。さあ皆さん、HBMSへ入学し、次に続く世代のため、持続可能な地域社会の実現のため、ともに変革を巻き起こす旅に出ましょう!

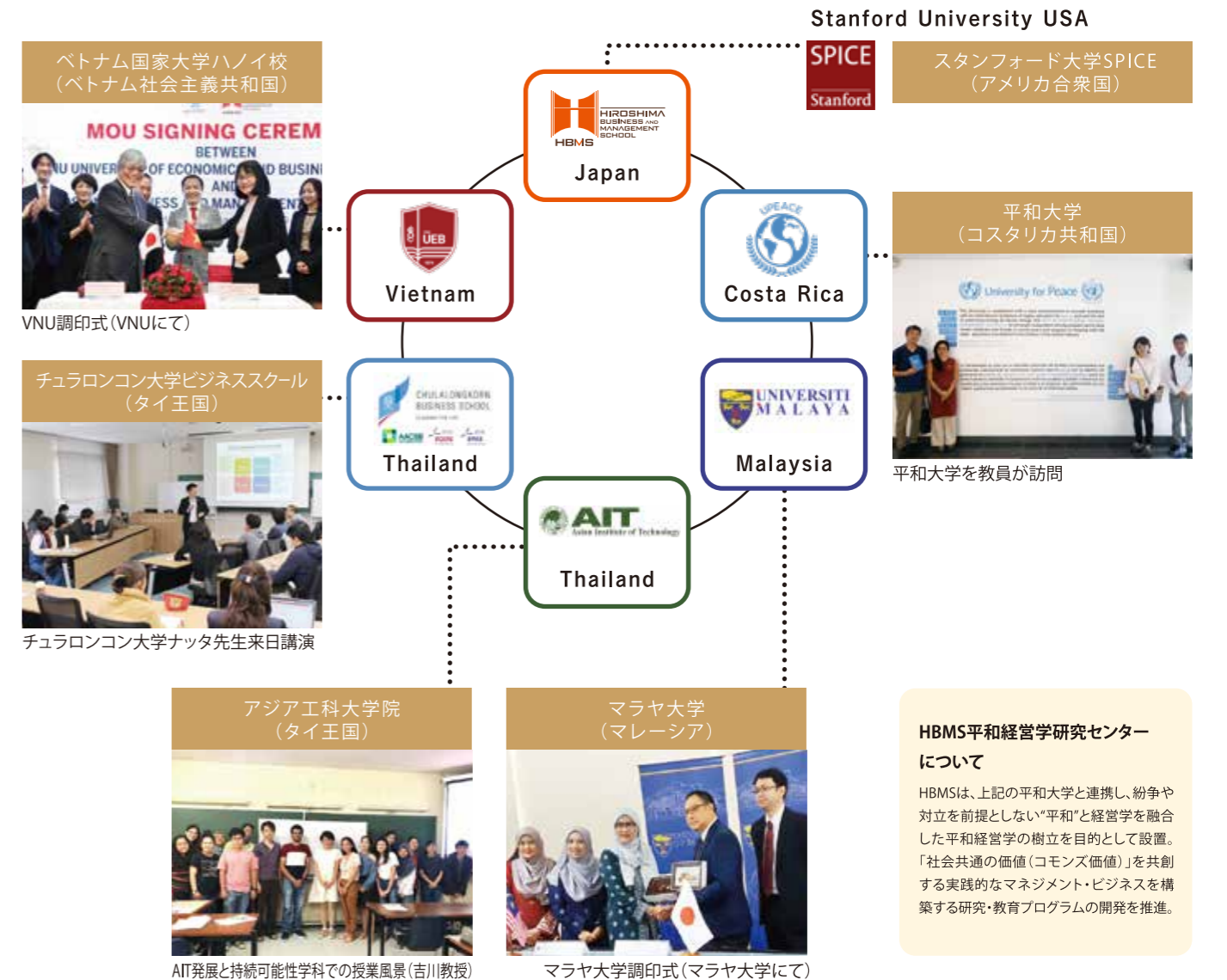


(左上から時計回り) ホームカミングデイ(親睦会)、シンポジウム(ビジネス協奏会)、オープンキャンパス、理事会

国際交流

HBMSでは、国際的な視野を持って活躍できる人材の育成を図るとともに、MBA教育プログラムの卓越化に取り組むため、海外先進大学との連携強化を図っています。

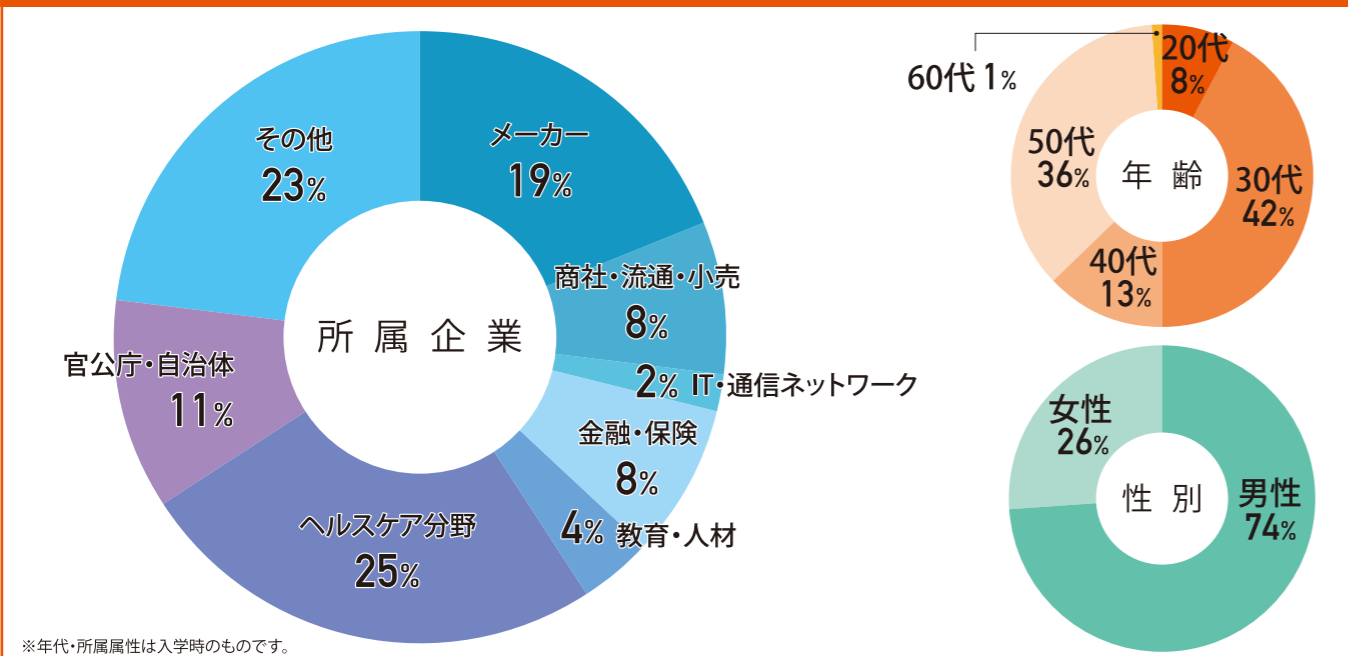
HBMSの国際交流協定締結校は、4か国5大学



HBMS平和経営学研究センターについて

HBMSは、上記の平和大学と連携し、紛争や対立を前提としない「平和」と経営学を融合した平和経営学の樹立を目的として設置。「社会共通の価値(コモンズ価値)」を共創する実践的なマネジメント・ビジネスを構築する研究・教育プログラムの開発を推進。

HBMS DATA < 学生・修了生のプロフィール > HBMSでは様々な業種、年齢の学生が学んでいます。



スタンフォード大学連携科目

スタンフォード大学は、世界にイノベーションを送り出すシリコンバレーにとっては欠かすことのできない教育機関です。そのスタンフォード大学とHBMSが独自のWEBオンライン授業を共同開発しました。起業家や専門家のゲストスピーカーの講義を通して、イノベーションやアントレプレナーシップについて学びます。



HBMSに学生を派遣する企業の声

※以下の情報は一部変更の可能性がります。

HBMSでは、企業、自治体、その他組織から派遣される社会人学生を広く受け入れています。2年間HBMSで学んだ「人材」は、組織にとって貴重な「人財」となります。スキル人材の育成・訓練で成果を上げるためには、「知識」「技能」「知恵」の三要素をすべて訓練する必要があります。HBMSに社員・職員を派遣することで、ビジネス・リーダーを育成することができます。

HBMSは地域活性化のプラットフォーム



株式会社ひろぎんホールディングス
代表取締役社長

部谷俊雄さん

当社グループの広島銀行では、HBMSが開設された2016年から、隔年で行員を派遣しています。派遣の目的は、将来の幹部候補生を養成するにあたり、経営のベースとなる戦略、あるいは論理的思考を身に着けることです。海外や国内のMBAもありますが、HBMSは地域に根差しているということが、地元広島の地方銀行にとって魅力的です。現在在籍している2名を含めた8名を派遣したのですが、修了した6名は、地方創生に関わる業務、企業の事業性評価に関わる業務、あるいは個人の方々の相続のサポートをする業務に携わっており、地域のお客様のことを思い、しっかりと対応してくれています。今後、HBMSには、広島の各企業で働いている方、経営者の方々など、多様な学生が多く学ぶことにより、そこでネットワークを作り、広島が活性化するような事業、あるいは新しい試みも含めて積極的にチャレンジしていただけるようなプラットフォームを作ってほしいと思っています。HBMSで学んだ人材が我々グループを引っ張ってもらおうと同時に、地域を活性化してくれることを望んでいます。

HBMSで経営の視座・視点を持つ社員に



オタフクソース株式会社
代表取締役社長

佐々木孝富さん

オタフクソースでは、HBMSが開設された2016年から現在まで6名の社員を派遣しています。派遣の目的は、中期の方針や計画の策定、各事業や部門別の戦略策定や推進、新事業の開発や推進をする人財が必要であったためです。私もビジネススクールに通い学んだ経験がありますが、そこにいた人達は同じ志を持って学んでおり、かけがえのない仲間になります。恩師の方々ともつながることができ、それは貴重な縁となり今でも交流が続いています。同じようなことがHBMSにおいてもあと思っています。HBMSで学んだ社員は、視座が上がっており、それによって視野が広がり、そして違った視点を持つようになっていきます。新しい発想力を持って、もっと違う結論、サービス、お客様に喜んでいただけるようなことなど、彼ら自身が導き出して、ボトムアップでどんどん提案してくれることを期待しています。広島の地場ならではのつながりは大事ですし、体系的な学びが出来る事は非常に貴重であるため、弊社としては定期的にHBMSへ社員を派遣したいと考えています。

「企業・自治体派遣」について

企業・自治体派遣(※)にて、社員・職員の受験を希望される派遣企業・自治体のご担当者様は、令和5年11月24日(金)～12月14日(木)の間に事前の申請が必要となります。

HBMS ウェブサイトの「入試情報」のフォームから必要事項をご入力ください。フォームは令和5年11月24日(金)に公開します。

※「企業・自治体派遣」には、社団法人・財団法人・NPO法人等の各種法人、法定団体等を含みます。

企業・自治体派遣での出願は下記の要件を全て満たす必要があります

- ① 企業・自治体に派遣制度があること。派遣制度がない場合は派遣制度を作る、又は作る予定があること。
- ② 被派遣者の選定において選抜基準があること。
- ③ 企業・自治体は、派遣した学生が学業に専念できるよう支援すると共に、必要に応じて業務の調整を行うなどの配慮をすること。

入学試験の概要

募集人員	選抜区分	選抜方法	
		一次選抜	二次選抜
25名	オープン入試 企業・自治体派遣	書類審査	選抜課題、口述試験

主要日程

選抜課題 公表	令和5年11月24日(金)頃
企業・自治体派遣 事前申請※1	令和5年11月24日(金)～12月14日(木)
出願資格審査※2	令和5年12月1日(金)～12月14日(木)
出願期間	令和6年1月5日(金)～1月18日(木)
一次選抜結果通知	令和6年1月29日(月)頃
二次選抜試験日	令和6年2月3日(土)・4日(日)
合格発表	令和6年2月13日(火)
入学手続	令和6年2月14日(水)～2月26日(月)

※1 企業・自治体派遣にて社員・職員の受験を希望される派遣企業・自治体のご担当者様は、事前の申請が必要となります。詳細は募集要項をご確認ください。
※2 大学の学部等を卒業していない方は、出願前に別途出願資格審査が必要です。詳細は募集要項の出願資格をご確認ください。

過去3年間の入試結果(オープン入試、企業・自治体派遣共通)

年度	入学定員	志願者数	志願倍率	一次選抜 合格者数	二次選抜				入学者数
					受験者数	受験倍率	合格者数	合格倍率	
令和5年度	25	64	2.6	58	57	2.3	30	1.9	30
令和4年度	25	54	2.2	51	51	2.0	31	1.6	31
令和3年度	25	37	1.5	36	36	1.4	28	1.3	28

学費、補助金・給付金制度のご案内

社会人の学びをサポートする補助金・給付金制度が充実しています。

【入学金】 県内の方:282,000円 県外の方:394,800円 **【授業料】** 年額535,800円(半期ごとに267,900円納入)

専門実践教育訓練給付金
(厚生労働省 個人向け)

HBMSは厚生労働省の指定講座となっているため、2年間でHBMSを修了すると給付金額が最大約93万円、支払った費用の70%が支給されます。支給資格等については、住所地为管轄するハローワークにご確認ください。



広島県未来チャレンジ資金
(広島県 個人向け)

入学時40歳未満で、修了後も広島県内で就業しようとする方を対象に、月額上限10万円を無利子で借りられます。条件を満たすと全額の返還が免除されます。詳細は、広島県商工労働局産業人材課にお問い合わせください。



イノベーション人材等育成事業補助金
(広島県 法人向け)

広島県内に本社・本店を置く中小・中堅企業を対象に、イノベーションを実現するための人材育成支援として、対象経費の2/3が助成されます。詳細は、広島県商工労働局産業人材課にお問い合わせください。

